

令和3年生駒市教育委員会第12回定例会会議録

1 日 時 令和3年12月27日(月) 午前9時30分～午前10時37分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第20号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和3年生駒市議会第6回(12月)定例会提出議案の意見について)
- (2) 報告第21号 令和3年生駒市議会第5回(11月)臨時会提出議案の結果について
- (3) 報告第22号 令和3年生駒市議会第6回(12月)定例会提出議案の結果について
- (4) 報告第23号 令和4年生駒市成人式について
- (5) 議案第35号 幼稚園教諭・保育士人事異動方針について
- (6) 議案第36号 押印を求める手続の見直し等のための関係教育委員会規則の整備に関する規則の制定について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	学校給食センター所長	財 満 直 也
こども課長	松 田 悟	こども課指導主事	川 田 奈 津 子
こども課指導主事	松 本 裕 美	子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育指導課課長補佐	日 高 興 人	こども課課長補佐	福 山 清 美
生涯学習課課長補佐	井 川 啓 一 郎	教育総務課(書記)	牧 井 望
教育総務課(書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 2名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・生駒市立小・中学校の再編等に係る方向性の各地域協議会への報告結果について、
山本教育総務課長から説明

(質疑) なし

・生駒市立幼稚園の再編に係る方向性の各地域協議会への報告結果について、松田こ
ども課長から説明

(質疑)

飯島委員：今回の一連の議論により、小学校や幼稚園、保育園というものは、通っ
ている子どもや保護者のものだけでなく、地域との関わりが重要であると分
かった。今後ますます重要になってくると思うので、教育委員会でも意識
して取り組んでいきたい。また、今回対象であった学校や園以外でも、特
徴を十分に活かせるような魅力ある学校づくりや園づくりを行っていき
たい。

伊藤委員：今後の具体的な進み方は決まっているのか。

坂谷次長：今回、4つの園とも再編ではなく存続となった。これまでの議論にもあ
ったように、こども園化には様々な選択肢がある。総合教育会議では、公立
の幼稚園の中に民間の小規模が入ってはどうかという意見もあった。まず
は他市の事例を調べる等により調査をしていく予定である。そしてそれを
教育委員会で共有し、スケジュールや方向性について定めたい。その上で
地域や保護者の方にお示ししたいと考えている。

伊藤委員：小学校についてはどうか。

山本課長：スケジュールについて、まずは学校運営協議会を主体として、新しく協議
会を作るのか、このままの学校運営協議会で話し合っていくのかを決める
必要がある。そこに教育委員会が入るという形になるだろう。校区につ
いては時間がかかると予測されるが、校区を決めなくては学校規模が分か
らないため進められない。そのためまずは、来年度にある程度の見通しを立
てたいと考えている。

原井教育長：今後の動きについてはどの報告会でも大変関心があった。来年度中には見
通しを立てていきたいと考えている。その内容については教育委員会にて
都度共有したい。

○日程第3 報告第20号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和3年生駒市議会第6回（12月）定例会提出議案の意見について）

- ・臨時代理につき承認を求めることについて（令和3年生駒市議会第6回（12月）定例会提出議案の意見について）、松田こども課長から説明

<参照：議案書p1～3>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第21号 令和3年生駒市議会第5回（11月）臨時会提出議案の結果について

- ・令和3年生駒市議会第5回（11月）臨時会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p4>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 報告第22号 令和3年生駒市議会第6回（12月）定例会提出議案の結果について

- ・令和3年生駒市議会第6回（12月）定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p5>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第6 報告第23号 令和4年生駒市成人式について

- ・令和4年生駒市成人式について、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p6～7>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第7 議案第35号 幼稚園教諭・保育士人事異動方針について

- ・幼稚園教諭・保育士人事異動方針について、松田こども課長から説明

<参照：議案書p8～9>

(質疑)

飯島委員：質問が2点ある。1つ目は、基本方針の(2)の「主幹教諭・主幹保育士の管理職への登用を積極的に進める。」という部分について、これによる具体的なメリットが知りたい。2つ目は、(3)「同一園での長期勤務者の解消に努める。」について、長期勤務とは何年であるか。

川田指導主事：幼稚園や保育園における管理職は園長と副園長にあたるため、園運営をしてもらうことになる。また、幼稚園での長期勤務は約6年を目途に対象とすることを検討している。

飯島委員：主幹教諭・主幹保育士を園長・副園長として登用するという点でよろしいか。

川田指導主事：管理職試験を受験し、合格者は順次登用することになる。

イノブ委員：現在、保育士の確保が難しくなっていると思う。原因の1つには既存の保育士が離職することもあるかと思う。そこで、保育士の離職率を聞きたい。また、離職率を下げる取組があれば合わせて教えていただきたい。

川田指導主事：離職率について、明確な数字は出していないが、今年度も何名か離職された。また、取組については、現在会計年度任用職員にも多く働いてもらっていることから、管理職から全職員へのヒヤリングを行い、意見を尊重したり、時給の改正や保育服の貸与等、正職員同様の待遇を考えているところである。

イノブ委員：自らの意思で保育士になった方が、長い間勤めることができれば良いと思う。課題があれば共有いただき、対応を考えていきたい。

原井教育長：基本方針の今年度の変更点について、説明を加えていただきたい。

川田指導主事：昨年度までは「新規採用職員は原則として保育所またはこども園に配属する」という文言があったが、今年度は幼稚園の正職員に定年退職者が多いこともあり、幼稚園にも新規採用職員を配属することとする。

原井教育長：新規採用職員を全て保育所またはこども園に配属すると、若い人材が偏ってしまうこともあり、今回はその文言を外した。また、幼稚園やこども園、保育園の人事交流を活発にしていくために(4)の文言を入れている。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第8 議案第36号 押印を求める手続の見直し等のための関係教育委員会規則の整備に関する規則の制定について

・押印を求める手続の見直し等のための関係教育委員会規則の整備に関する規則の制定について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p10～13、資料1>

(質疑)

飯島委員：反対に、押印を継続する書類は何か。

山本課長：今回押印が廃止されたのは、基本的に保護者や利用者の押印である。しかし、市から出す文書については今後も押印が残る可能性がある。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第9 その他

- ・令和4年1月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）なし

原井教育長：今年の定例会は今回が最後である。教育委員の皆様には大変ご尽力いただいた。私が心に残っていることは3点ある。1点目は、昨年度から続いている新型コロナウイルス感染症の対応である。特に連休前後や夏休み明けには市内でも感染が拡大し、学校現場では感染症対策等において苦勞をかけた。さらに9月からの1か月間では、午後からオンライン授業を行うこととなった。2点目は、このようなICTの活用である。1月に端末が配布されてから、短期間で取り組んでいただいた。多くの教師が、実際に取り組むことでICTスキルを学ぶことができたと思う。子どもたちもICTスキルを学ぶことで、主体的に学ぶという点において成果を残すことができたと思う。また、学校に来ることが難しい子どもにも効果があると分かってきたところである。これらの成果は今後の教育活動に繋げていきたい。3点目は、園や学校の再編についてである。地域協議会に参加し、直接地域の方や保護者の声を聞くことで、改めて園や学校の役割を感じた。それを踏まえ、子どもたちの成長にとって必要なことや大切なことを考えながら議論し、11月に方向性を決定することができた。これからどのように取り組んでいくのか、どのように教育委員会が関わっていくのかが今後の課題となっていくであろう。来年度も引き続き、子どもたちが健やかに安心して成長していけるように、教育委員会で尽力していきたいのでご支援願いたい。

神澤委員：今年の私の中での大きな出来事は、自殺対策としてSOSの出し方教育を生駒市内の全小中学校で実施できたことである。全国でも実施している地域は少なく、数パーセントと聞いている。生駒市が近隣の市町村の見本になれば良いと思う。奈良県教育委員会では、今年度は教師のみの実施であったが、今後はもっと範囲を広げていきたい。昨年の小中高校生の自殺者数は499人である。小学生の自殺者数は比較的少ないが、増えている。目標は生駒市での自殺者ゼロである。来年も引き続き、教育委員会の皆様にご協力いただきながら目指していきたい。

飯島委員：園や学校の再編の件は、私も印象に残っている。この度決定したことはこれで終わりでない。これから、保護者や地域の方だけでなく、教育委員会が支援し新しい地域と学校の連携の在り方を共につくっていかねばなら

らない。そのためにはまだまだ勉強していかなくてはならないと感じている。

古島委員：私はICT教育の推進が心に残っている。9月からのオンライン授業は、生駒市として大きな挑戦であっただろう。学校現場にも様々な課題があっただろうが、まずは、学校と家を繋ぐことができ、それが学びの提供方法の1つとなったことに成果があったのではないか。私事ではあるが、息子が11月に3週間ほど入院をしていた。その際、オンライン授業を通してクラスメイトと繋がることができた。新型コロナウイルス感染症の影響で保護者との面会が15分と制限されていた中で、息子の心の支えになったと思う。このことから、オンライン授業は学校に来ることができない等の様々な状況の子どもにとって、学校と繋がる場として今後も必要であると感じた。

坪井委員：8月の定例会にてオンライン授業をお願いしたところ、9月に実行された。子どもたちが友達や先生と話せることには大きな意味があると考えているため、素早い対応と先生方の努力に感謝したい。しかしそれに伴い、タブレットを自宅へ持ち帰ることが増え、子どもの荷物がさらに増えた。それが理由で学校に行きたくないと思う子どもがいるほどである。以前からお伝えしているが、置き勉を認めることを進めていただきたい。文科省でも推奨されているのにも変わらず、未だに認めていない先生がいる。校長会等で先生方に周知いただき改善してほしい。子どもにとって本当に良いことがなにかを考えていただきたい。

伊藤委員：この1年で思うことは大きく2点あり、まず1つ目はICT化についてである。新型コロナウイルス感染症でICT化がかなり進んだが、一方で、子どもたちのICTとの付き合い方に心配なところもある。チャットの利用方法に問題があるというのもその1つであると考えられる。心の問題がICTによって表面化しやすくなっているのだろう。今後はそういった問題に対して、もっと子どもたちと話すことで一緒にルール等が作れると良いと思う。心の問題と機器の取り扱いの両方に関連したエチケットについて、考える機会が作られるようにプログラム化していただきたい。また、不登校児童及び生徒へのICTの活用について、遊ぶために学校に行きたくないというような子どもへ安易に使うことになると良くないが、長期的に欠席が続いている子どもに対しては積極的にオンライン対応できれば良いと思う。次に2点目は、尾崎さんに来ていただいたことである。小学校や中学校に新しい考え方が浸透していくのを目の当たりにして衝撃的だった。影響力は大きかったであろう。このような、職員とは違うバックグラウンドを持った方が現場とコラボできるような取組を今後も増やしたい。その一つが地域との繋がりであると感じる。生駒南第二小学校のロボット

図鑑君のような、地域とICTと外からの起爆剤の3つが融合できるような取組を少しずつ進められると良いと思う。

レィルス委員：学習指導要領に記載されている「予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。」という文言は、文部科学省が重要としている部分である。生駒市もこの考え方を反映して教育大綱を作成している。しかし果たして私たち大人はこれを達成できているのか。教育現場だけでなく、世界中で実行して、その姿を子ども達に見せることで次の世代にも繋がると考えている。正解がない中ではあるが、引き続き皆様と一緒に協議しながらより良い教育に少しでも近づけるように努めたい。

原井教育長：先が予測できない中で、生駒市の子どもたちにどんな力を付けなくてはならないのか、そのために我々がどんなことを考えなくてはならないのかというところを、生駒市の教育推進に向けて来年度も協議を重ねていきたい。

○閉会宣告

午前10時37分 閉会